

# 実習指導者が企画した 指導者育成プログラム

令和5年度実習指導者育成ワーキング

# 実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング（以下実習指導者育成WG）は、平成26年度より臨地実習現場での実習指導の質の向上を目的としてスタートし、今年度10年目を迎えた。

【WG構成メンバー】 13名

WG長（看護師長）、看護師長 2名、副看護師長 6名（内2名教育担当）  
実習指導経験のある看護師4名

目的 臨地実習現場での実習指導の質を向上させる

- 目標
- ①実習指導者研修会の企画・運営・評価を行い、効果的な指導ができる実習指導者を育成する。
  - ②実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、実習指導に伴う課題に対して改善策を立てることができる。
  - ③実習指導要項の活用を促進することができる。
  - ④看護学生への実習指導の質を担保することができる。



# 実習指導者会議

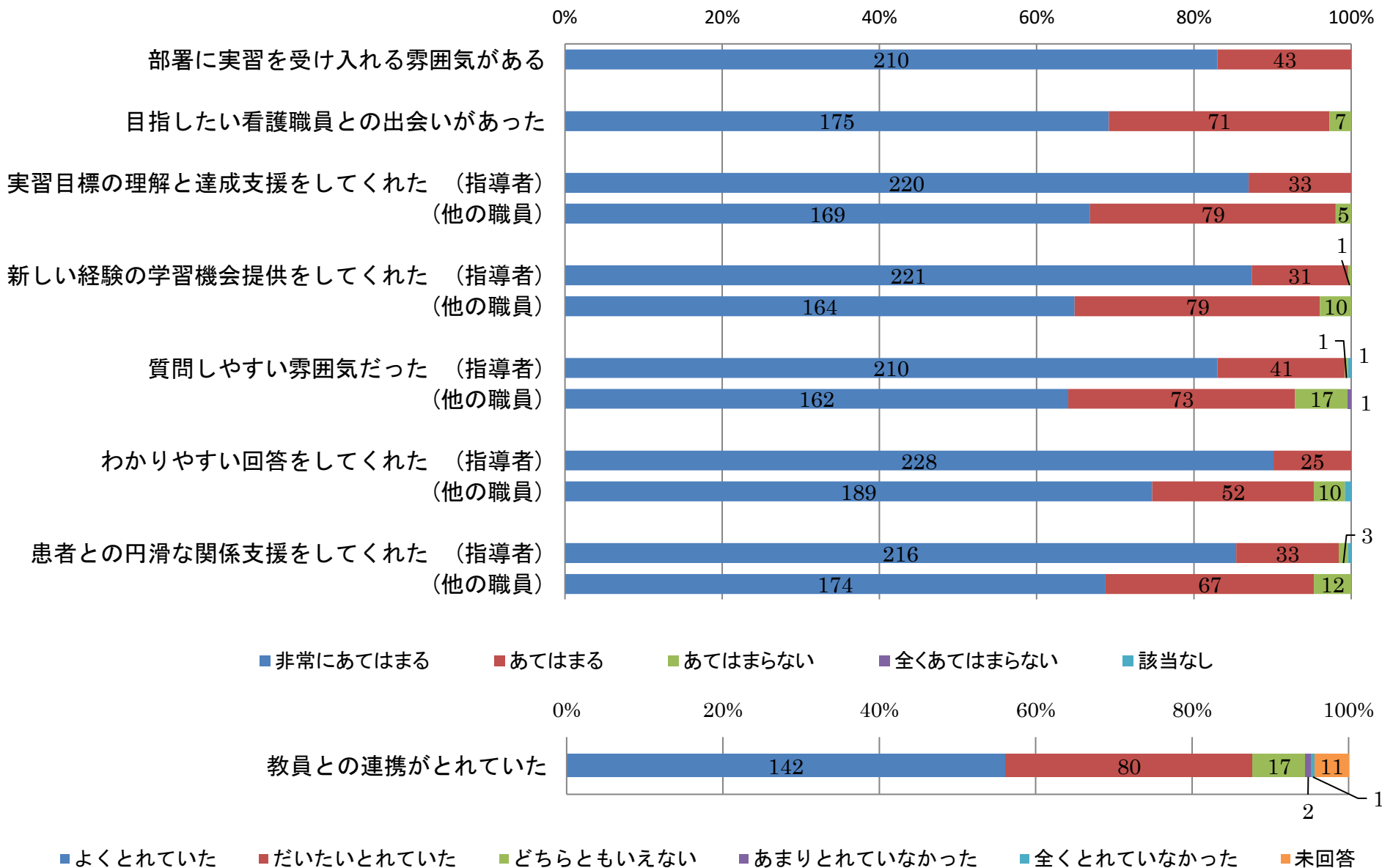
目的 実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る

- 目標 ①学生への教育的・効果的指導のあり方を検討し、実習指導に活用することができる。  
 ②実習指導体制の課題を抽出することができる。  
 ③実習指導に関わる問題を抽出し、対応策を実施することができる。  
 ④実習指導要項の活用を促進することができる。

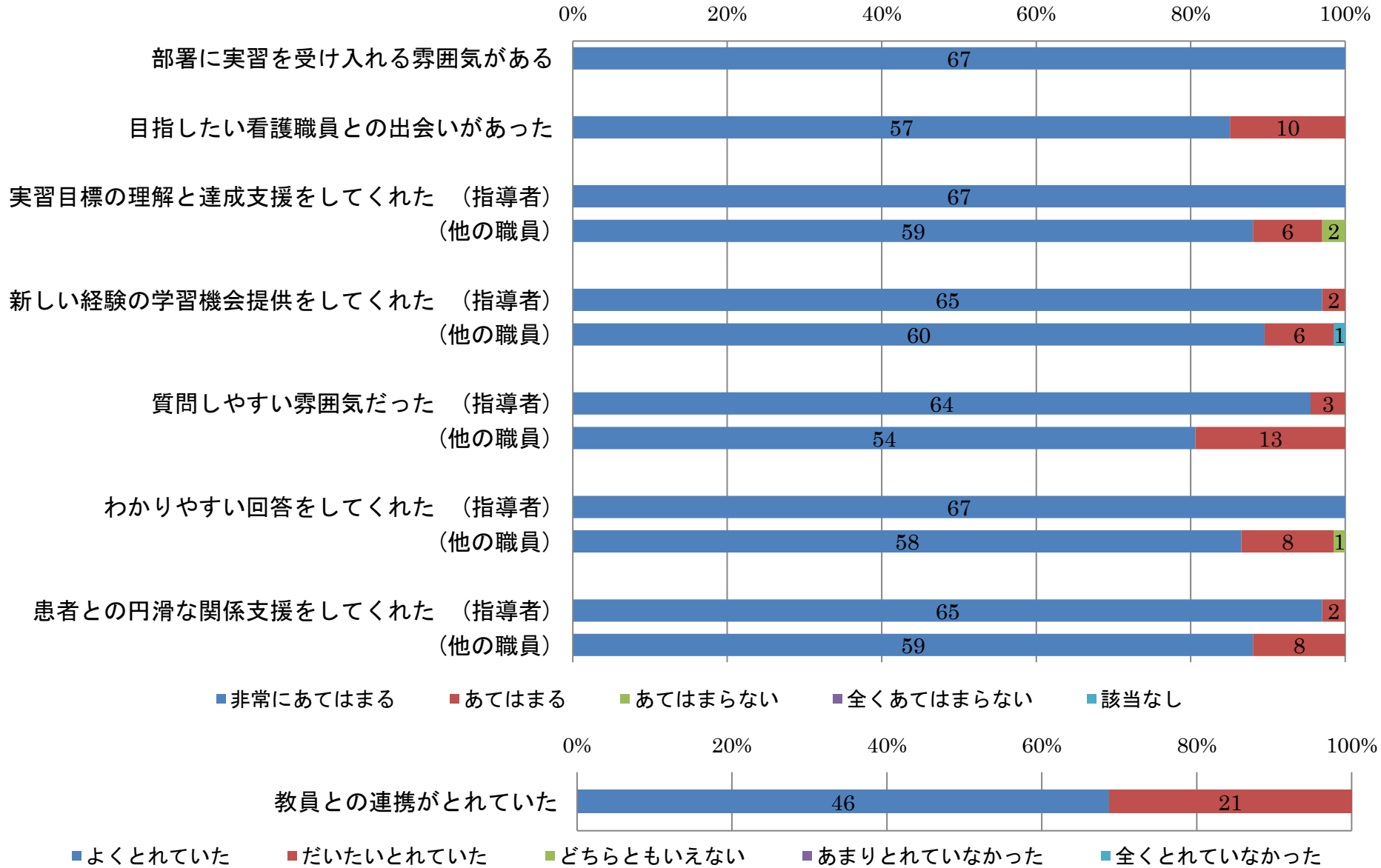
回	1			2		3	4	5	
日程	4/28(金)	5/26(金)	6/23(金)	8/25(金)	9月	10/27(金)	11/30(木)	令和6年 2/29(木)	
担当	司会	教育担当	看護部	看護部	北11-1:早田 北11-2:今村	看護部	WW1:川津 北3:楢崎	南5-1:丸岡 南5-2:岡善	南7-1:四ヶ所 南7-2:出口
	書記	教育担当			ICU:須藤 CGU:犬塚		救命ICU:坂本 ハイケア:前間	南6-1:長谷部 南6-2:丸山	南8-1:後藤 南8-2:池田
会議内容	1. 会議規程について 2. 会議構成員について 3. 実習指導者育成WGIについて 4. 会議日程について 5. 令和4年度実習指導者会議活動のまとめ 6. 保健学科第17期生の卒業時の看護技術到達度について 7. 2022年度保健学科総括について 8. 実習指導者会議活動計画について 9. 看護学生受け入れ計画について 10. 令和5年度学生アンケートについて 11. 令和5年度臨地実習指導者研修会について 12. その他	九州大学保健学科  実習指導者連絡会	福岡看護大学  実習指導者連絡会	実習指導に関する情報共有	福岡女学院看護大学  実習指導者連絡会	学生の状況や実習についての情報共有	事例検討	会議の目標評価と振り返り  (実習指導要項の見直しと活用状況の振り返り、実習指導体制における課題とその対策)	
									各部署 音声付パワー ポイント配布

WGメンバーが会議の企画・運営に参画した。各部署における実習指導体制の課題と対応策について、同じ領域で意見交換や情報共有、対応策の検討を行った。

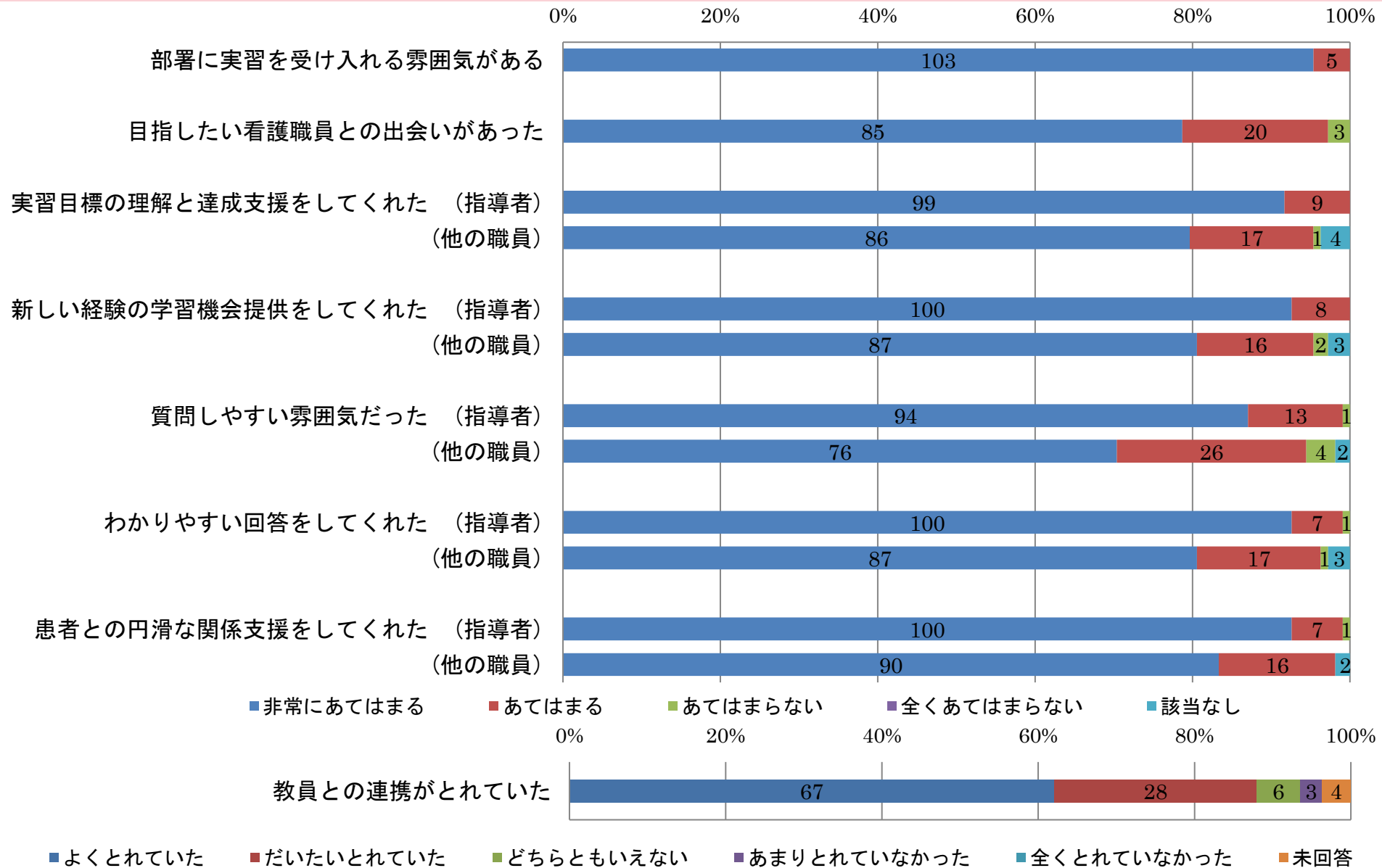
# 実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



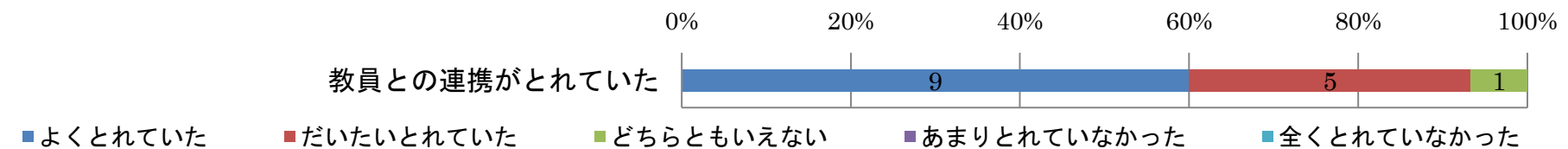
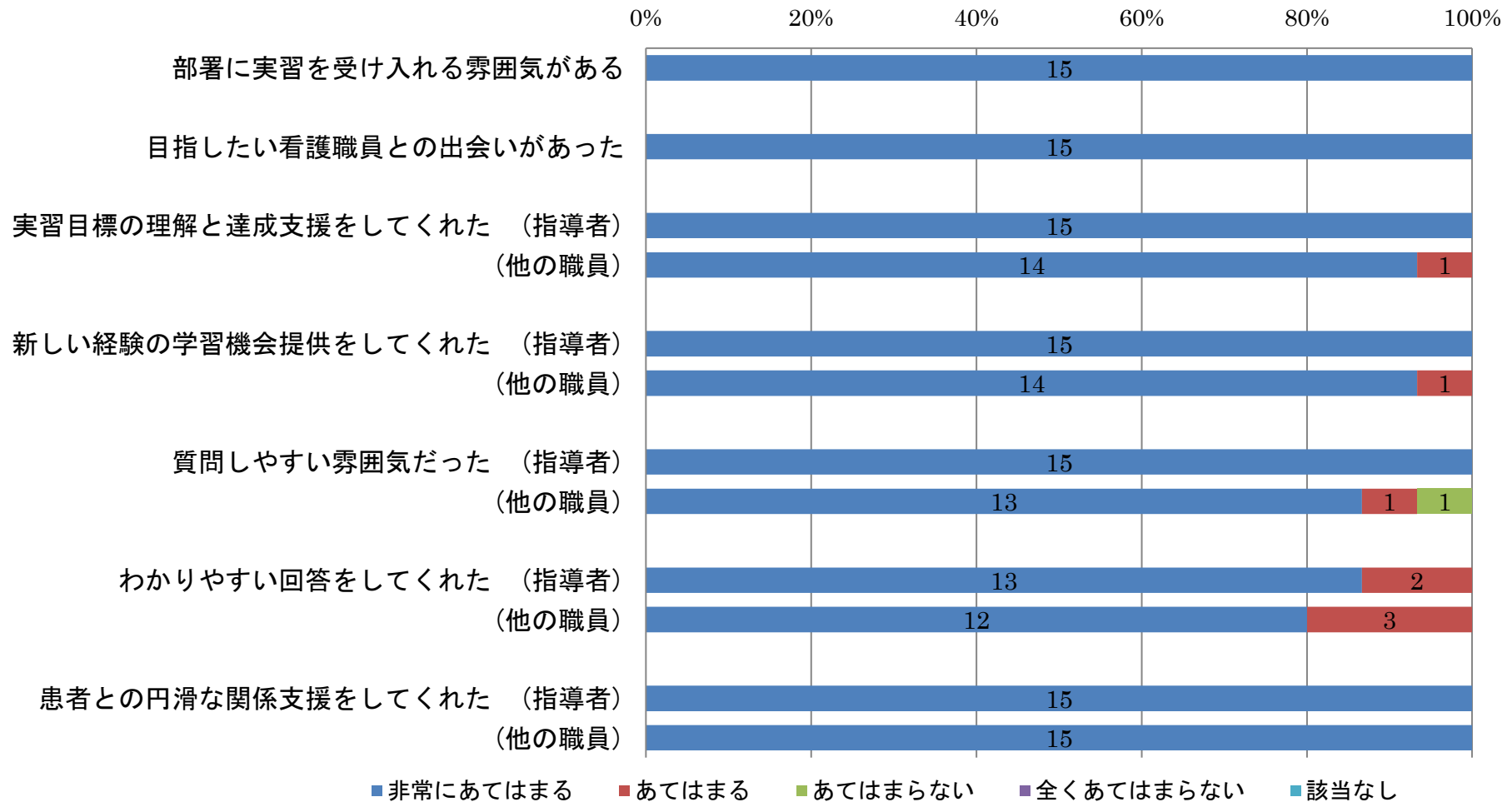
# 実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



# 実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



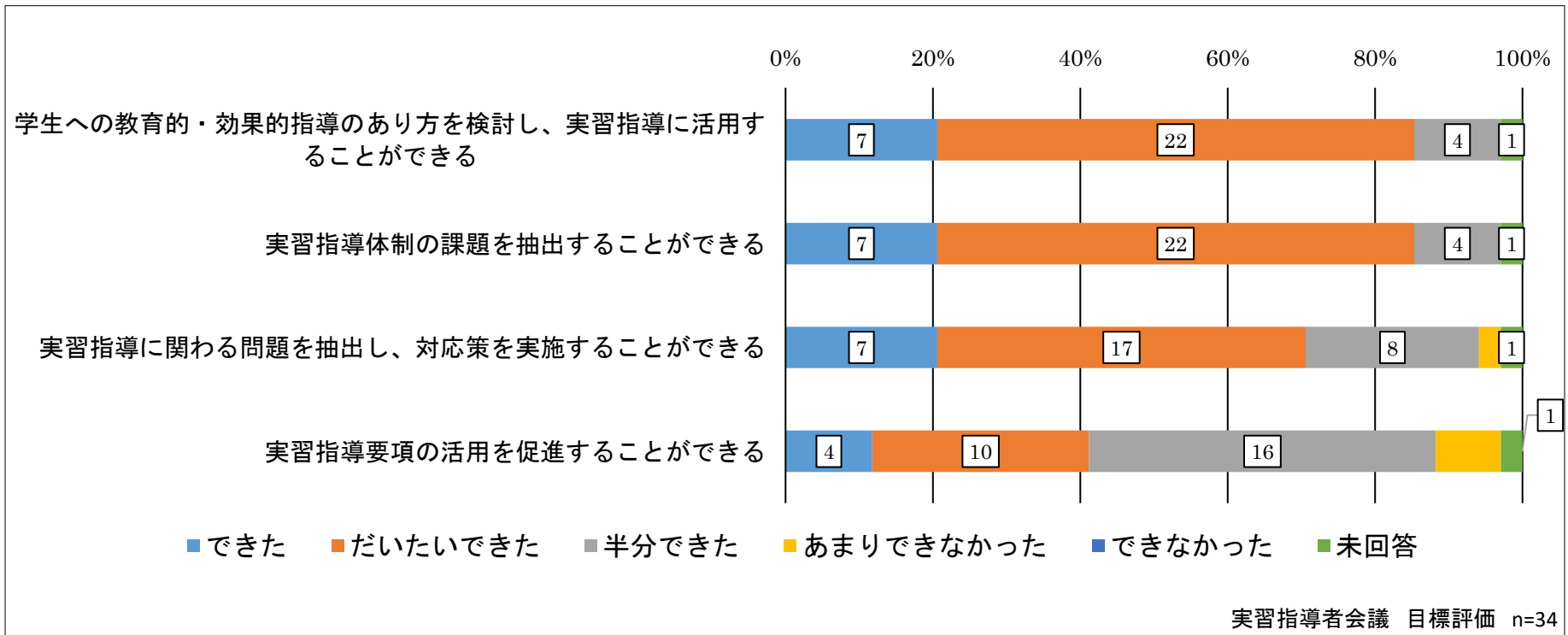
# 実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -





# 実習指導者会議

## 会議目標の評価



### 評価まとめ

教育的・効果的指導のあり方や、課題の抽出について、80%以上が「できた」「だいたいできた」と評価した。実習指導者会議での情報共有により、学生の実習目標の達成に向けて、効果的に取り組みを行うことができたと評価する。

# 臨地実習指導者研修会

- 目的 ①看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する。
- ②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す。

対象者：新たに臨地実習指導者となる看護職員48名  
九州大学医学研究院保健学科部門の教員と協働で開催

回	月	テーマ
1	6月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	7月	看護学生の動向 看護過程
3	9月	カンファレンスの指導方法 事例検討
4	10月	実習指導の実際 事例検討
5	1月	まとめ

WGメンバーは、研修スケジュール作成、事例作成、ワークシート・発表形式の検討、当日の運営や司会進行を担当した

## 第3回・第4回実習指導における困難事例の検討

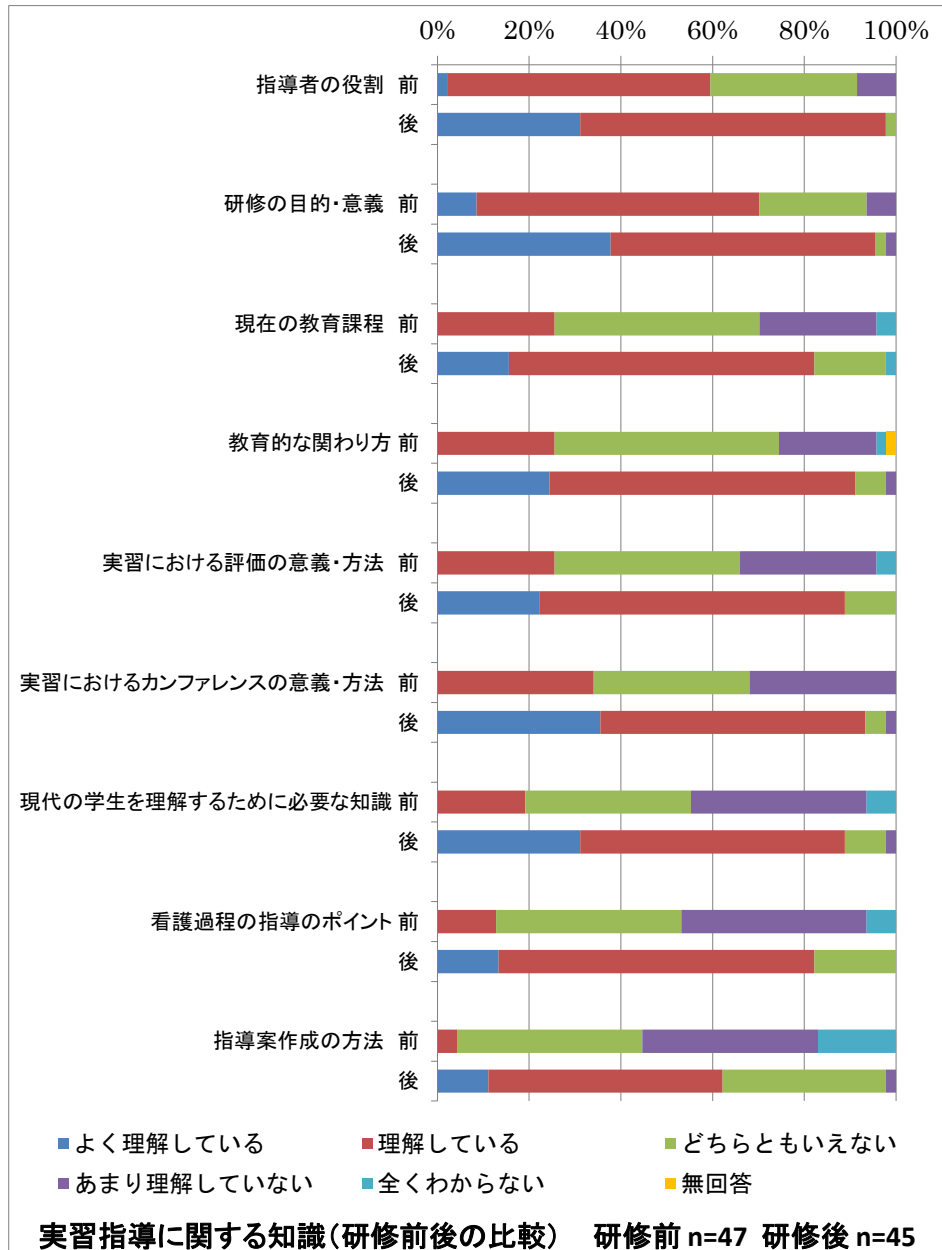
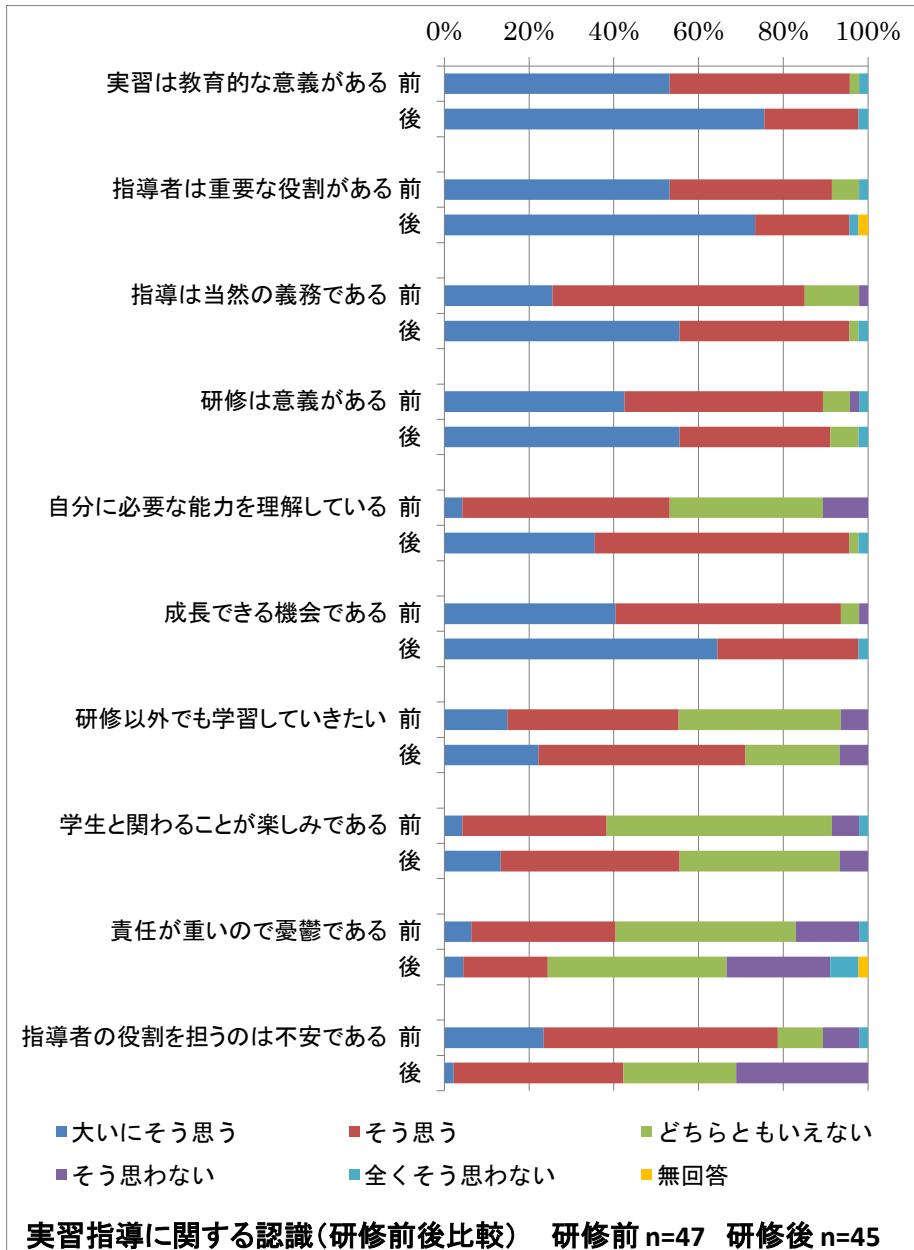
目標

- ①事例検討を行い、多角的な視点から問題点を分析できる
- ②学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる

## 参加者の学びや感想

- 関わり方は1つではない事、学生のロールモデルとなれるよう頑張りたいと思った。
- 自分だけではなく他の人の意見も聞くことができ、考えの幅が広がった。

# 臨地実習指導者研修会 – アンケート結果 –



# 臨地実習指導者研修会 – アンケート結果 –

R5 研修前 n= 47 研修後 n=45		
	平均値	±標準偏差
<b>【総合得点】</b>		
研修前	76.4	12.1
研修後	92.6	11.5
<b>【カンファレンスを実施できる自信】</b>		
研修前	12.7	2.6
研修後	15.8	2.5
<b>【看護実践能力を活用できる自信】</b>		
研修前	11.7	2.0
研修後	13.5	1.9
<b>【学習者として学生を尊重する自信】</b>		
研修前	15.3	2.5
研修後	17.6	2.3
<b>【学びを深めるために技法を活用できる自信】</b>		
研修前	10.6	1.9
研修後	13.3	1.8
<b>【実習教育の準備ができる自信】</b>		
研修前	11.1	2.2
研修後	13.2	2.0
<b>【学生の状況を判断できる自信】</b>		
研修前	7.7	2.0
研修後	9.7	1.7
<b>【学生の学びを促進できる自信】</b>		
研修前	7.3	1.9
研修後	9.5	1.7

「臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念」に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度（坪井ら、2001）」を用い、研修前後における比較を行った。

すべての項目において、研修後の得点が上昇した。この結果より、研修や経験の積み重ねから、自信をもって効果的な実習指導を行うことができたことが示唆される。

# 臨地実習指導者研修会－アドバンスコース－

目的：看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を再認識し、  
実習指導に活かす

対象者：条件を満たし推薦を受けた看護職員21名

回	月	テーマ
1	6月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	7月	看護学生の動向 看護過程

## 【研修後の学びや感想より】

- 対面授業が開始となり、実習も以前と同じ体制に戻るため、学生の不安を少しでも軽減できるような実習にしていきたい。
- 学生のレディネスを把握した上で実習に臨みたい。
- 看護過程の段階に沿った指導のポイントや学生にみられる行動を理解できたので指導に活かしていきたい。

# まとめ

- 研修内容についてWG内で検討を重ね、実習指導者の質の向上を目指した。
- 臨地実習の場において学生の直接的なコミュニケーション支援の課題もみえており、研修へ取り入れることができた。
- 学生の学びの支援や、学生と患者との関係支援、病棟スタッフとの連携など、効果的な実習を進める点において、実習指導者の役割は重要性が増している。
- 今後も効果的な指導が出来る実習指導者の育成と、部署全体で実習を受け入れる態勢を整えることを目指し実習指導者育成WGとして活動していきたい。